

## 教育委員会の会議及び委員の主な活動

教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行する。定例会や臨時会の会議開催のほか、必要に応じて課題研究・意見交換のため、教育委員協議会を開催している。

また、定例会の会議録をホームページで公開するなど、県民に開かれた教育委員会を目指している。

(ホームページアドレス <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/>)

### 【委員名簿】

区 分	氏 名	任 期	備 考
教育長	佐 野 哲 郎	R4.4.1 ~ R7.3.31	
教育長職務代理者	小 林 元	R4.10.18 ~ R8.10.17	3 期目
委員	井 口 清 太 郎	R2.11.18 ~ R6.11.17	2 期目
委員	三 井 田 由 香	R3.10.18 ~ R7.10.17	2 期目
委員	松 山 悦 子	R5.10.17 ~ R9.10.16	2 期目
委員	吉 田 徳 治	R2.11.18 ~ R6.11.17	

### 【令和 5 年度の活動状況】

#### 1 定例会・臨時会（12 回）

定例会は月 1 回、臨時会は必要に応じて開催しており、令和 5 年度は定例会を 12 回開催した。臨時会は開催しなかった。

#### < 議案等件数と主な内容 >

審議事項	主 な 内 容
議 案 60件	条例・規則改正等 6件
	人事案件 22件
	その他 32件 ・県立高等学校、県立中等教育学校の募集学級及び募集定員について ・教育委員会表彰について 他
報 告 8 件	・教職員の人事異動について 他
その他 54件	・新潟県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について ・全国学力・学習状況調査結果について ・令和 6 年度働き方改革推進プランの取組について 他

#### 2 教育委員協議会（5 回）

教育行政の現状や課題等について協議・検討する場として、令和 5 年度は 5 回開催した。

### 3 総合教育会議（2回）

知事の主宰する総合教育会議に出席し、本県教育の課題及び目指す姿等について協議した。令和5年度は下記日程で2回開催した。

【令和5年7月24日(月)】

テーマ 「新潟県教育の大綱の改定について」

「本県の公教育における通信制のあり方について」

【令和6年3月19日(火)】

テーマ 「いじめ対策について」

「デジタル人材の育成に向けた県内大学や高校等の教育について」

### 4 全国都道府県教育委員会連合会への参画（総会2回）

各都道府県の共通の課題を検討し、必要に応じ連合会として国への働きかけ等の活動を行った。

<第1回> 令和5年7月10日(月) 長野県

<第2回> 令和6年1月29日(月) 東京都

### 5 北部ブロック道県教育委員協議会への参画

北海道・東北6県・新潟県の教育委員で構成される協議会に出席し、各道県が抱える教育課題等について協議、情報交換を行っている。

【令和5年度北部ブロック道県教育委員協議会（夏季）開催地：盛岡市】

・基調講演「未来につなぐ 奇跡ではない釜石小の軌跡」



・班別協議「不登校児童生徒の増加への対応と課題について」



## 6 学校等教育関係機関の視察（3か所）

現場の状況を実地に視察し、教育施策に反映させるための参考とした。

・五泉市立五泉中学校



タブレットを用いた授業（数学）

・県立新潟中央高等学校



音楽科の個別指導の様子

・県立村松高等学校・県立五泉特別支援学校村松分校



両校の特色ある取組の説明



特別支援学校の授業の様子

## 7 卒業・記念行事等式典への出席（9回）

生徒の姿や学校の状況を知ることができる意義ある機会として出席した。

< 出席内容 >

- ・県立六日町高等学校 創立 100 周年記念式典
- ・県立加茂高等学校 創立 100 周年記念式典
- ・県立村上桜ヶ丘高等学校 創立 110 周年記念式典
- ・県立新潟向陽高等学校 創立 50 周年記念式典
- ・県立高等学校卒業式出席（5回）

## 8 市町村教育委員会の研修会への出席

市町村の教育委員を対象とした研修会へ出席し、市町村の取組事例に関する意見交換や市町村教育委員との情報交換を行うなど委員としての研鑽に努めるとともに、市町村教育委員会と県教育委員会との連携を強化している。

## 9 教員採用に係る点検

教員採用の一層の透明性を高めるため、合格者最終案と教員採用選考のプロセスを点検した。

<主な点検項目>

- ・ 判定会議を経て作成された「判定表」、判定表作成までに至る経緯
- ・ 個別受検者に係る「評価表」「答案類」との照合 等

## 10 教育委員会の公開

教育委員会の情報公開を一層推進し、県民に開かれた教育委員会を目指して、会議に付議する全ての事案をホームページで広く県民に公告するとともに、公開分の会議録、及び非公開分の議事の結果概要をホームページで公表した。

## 11 教育委員が委嘱等を受けている関係団体及び役職

- ・ (公財)新潟県肢体不自由児協会 理事

## ～ 教育長及び教育委員から ～

新潟県教育長 佐野 哲郎

令和4年12月に「新潟県教育の日に関する条例」が制定されました。人口減少が進む中、今まで以上に、県民一人ひとりが、教育の重要性を再認識し、生涯にわたって学び続けること、そして、学んだことを社会で生かすことができる教育環境が求められています。

VUCAといわれる時代、学校での児童生徒の学び方は大きく変わろうとしています。先生から児童生徒への一方通行の学びから、児童生徒自らが主体的に課題を見つけ、仲間と対話を重ね、試行錯誤の中から解決策を見つけ出す「探究的な学び」が、新しい学びの形として求められています。さらに、様々な学びの場面で、教員、児童生徒双方が、ICTを様々な形で活用していくことも重要な課題です。

一方、学校現場では、いじめの問題に加え、不登校の増加が新たな課題として指摘されており、児童生徒一人ひとりにとって、いかに学校を楽しい場、行きたくなる場にしていくか、学校の存在意義が問われる状況となっています。

まさに分水嶺にある学校教育、山積する教育課題に、今後も、学校関係者や市町村教育委員会の方々、そして地域の皆様と連携しながら取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

## 新潟県教育委員 小林 元

本県におきましては人口減少に伴う小中学校の適正配置及び高校の再編、喫緊の課題であるいじめ対策、教職員の多忙化対策及び部活動の地域移行等、教育を取り巻く諸問題等が山積しております。時代の変化も激しく、ICT教育の推進といったバーチャルな社会へと急速に移行しております。

そのような中、本県では「一人一人を伸ばす教育」を掲げた教育振興基本計画に基づく事業を毎年、実行しております。今年度の評価結果は大半の項目において「順調に進んでいる」又は「概ね順調に進んでいる」という評価となりました。この結果につきましては、教育現場で計画を実践される教職員の皆様、教育行政に携わられている皆様の御尽力によるものと敬意を表す次第です。

今後につきましても、時代の変化を想定し、持続可能な教育行政を実践できるよう、課題を明確にし、改善すると共に、こどもたちが明るい将来を思い描けるような社会となるよう努力いたします。今後とも教育行政に御協力いただきますようお願い申し上げます。

## 新潟県教育委員 井口 清太郎

私は本職として医療を生業としています。

以前、なかなか新しい看護師が入职しないと嘆く地方病院がありました。過日、その病院に伺うと以前と違う活気を感じます。院長先生にその要因を伺うと一言「教育です」とおっしゃいます。看護学生等を受け入れ実習を行い、さらに看護師を始めとする専門職への教育機会を増やすなどしたところ、院内が活気づき、さらに若い看護師の入职も増えてきたとのこと。

その時思いました。教育は強力かつ魅力的なコンテンツであり、人間は本来、学びたい生き物なのだ、と。どの様な現場でも、教育は魅力的です。その最たるものが小中高校を始めとするこどもたちへの教育です。そんな教育への飽くなき改善の営みがこの報告書になります。

御一読いただき、御意見いただけますと幸いです。

## 新潟県教育委員 三井田 由香

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、通常の教育活動の充実に向けて、「一人一人を伸ばす教育」が推進されました。また、こども家庭庁が発足し、こどもを尊重して社会全体でこどもを育てようと、様々な課題解決に向けて期待が高まっています。新潟県では、11月1日を「新潟県教育の日」と定め、施策を重点的に実施するため、11月を「新潟県教育月間」とし、一層、教育に県民の関心が向けられています。そうした中、少子化の加速や不登校の増加、教職員の働き方改革、教員志願者の減少など、変わらず教育を取り巻く課題は山積しており、改善に向けて取組を進めています。

また、社会の急速な変化に伴い、教育も大きく変わりつつあり、まさに過渡期にあると感じています。時代と共に、教育も変化しつつも、こどもの健やかな成長への願いは不変です。日本の教育が、脈々と受け継いできたことを大切にしながら、これからの新潟県のこどもたちのウェルビーイングが実現されますよう、今後とも県民の皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

## 新潟県教育委員 松山 悦子

この数年のコロナ禍で、教育現場は様々な工夫を重ね、喫緊の課題の解決に追われてきましたが、そのおかげで多くの合理化も進んだと感じています。こどもたちは各自のタブレットを使いこなし、日々の学校活動に生かしています。一方で、今後のこどもたちの視力の問題、適切な使い方の問題は懸念されるところです。

教員不足問題、少子化に伴う学校の統廃合の問題など、学校現場だけでは解決できない課題にも直面しており、各所で議論が進んでいますが、さらに多くの皆様の御意見・御協力を賜りたくお願いいたします。

本書についても、多岐にわたる諸課題に対する関係各位の皆様のこの1年の御尽力が表されたものであり、深く敬意を表しますとともに、今後とも、教育行政に対し、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 新潟県教育委員 吉田 徳治

新潟県教育振興基本計画では、児童生徒一人一人の個性に応じた質の高い「一人一人を伸ばす教育」を基本理念に掲げています。夢や希望を持って未来を切り拓き、これからの県の発展に参画できるような人材を育成し輩出することを、「ひとつづくりの姿」としています。

教育の現場にICTが導入され、活用されるようになってきてしばらくの時間が経過しました。ICT導入への対応には、現場を任されている教職員の皆様は多くの御苦勞を伴ったと思います。最近、新しい教育の進め方を拝見するたびにこどもたちが学ぶ環境の明るい未来が思い描かれます。働き方改革の残業規制などが大きな枷となっている今、一人一人に寄り添える時間をかけられなくなってきました。新しいテクノロジーを武器にこどもの教育環境を守ってあげていただきたいと思います。

色々な原因で不登校になってしまうこどもたちも一定数います。また、様々な学習歴や生活歴の児童生徒も存在しています。働きながら学ぶ生徒もいます。一人一人の学習目的や興味・関心に応じた多様な教育ニーズに対応するように定時制・通信制の高等学校等の充実にも引き続き検討し取り組んでまいります。今後とも、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

